

平成29年度滋賀県がん診療連携協議会・第3回研修推進部会 議事概要

日 時 平成30年2月23日（金）18時00分～19時05分

場 所 滋賀医科大学医学部附属病院 4階 第4会議室

出席者 村田喜代史（滋賀医科大学医学部附属病院）

片倉浩理（大津赤十字病院）

多川晴美（滋賀医科大学医学部附属病院）

北川久美（大津赤十字病院）

高野厚子（滋賀県立総合病院）

山崎道夫（公立甲賀病院）

中村洋美（公立甲賀病院）

木下千恵美（彦根市立病院）

田久保康隆（市立長浜病院）

山岸美紀（市立長浜病院）

澤井奈奈江（高島市民病院）

小林遊（草津総合病院）

馬場正道（済生会滋賀県病院）

中野且敬（代理：嶋田）（近江八幡市立総合医療センター）

馬場弘道（長浜赤十字病院）

高山真一（滋賀県歯科医師会）

瀧川政邦（滋賀県薬剤師会）

三上房枝（滋賀県看護協会）

平田誠（滋賀県放射線技師会）

松井まり子（滋賀県臨床検査技師会）

玉井文子（滋賀県歯科衛生士会）

鈴木真理（滋賀県栄養士会）

寺田智祐（滋賀県病院薬剤師会）

野坂明子（滋賀県健康医療福祉部）

嶋田宏之（滋賀県立総合病院）

欠席者 財間正純（滋賀県立総合病院）

吉川浩平（彦根市立病院）

武田佳久（高島市民病院）

高見史朗（市立大津市民病院）

辻川知之（東近江総合医療センター）

中村隆志（滋賀県医師会）

オブザーバー 柳田英代（滋賀県がん患者団体連絡協議会）

（敬称略）

1. 報告

議事に先立ち、部会長より、前回の部会（平成 29 年 10 月 20 日開催）の議事概要について、ご意見等があれば事務局までご連絡いただきたいとの依頼があった。

2. 議題

(1) 平成 29 年度の取組について

1) がん関係フォーラム、講演会等開催予定、受講人数について（資料 1-1～3）

滋賀県のサイト「がん情報しが」に毎月掲載しているがん関係フォーラム、講演会等の情報を基に、各医療圏における講演会等について過不足等の確認、検討を行った。

(大津) 今年度は、35 回の講演会を開催し、主催が滋賀医科大学、市立大津市民病院と大津赤十字病院で3分の1ずつの開催になっている。臓器別で見ると多岐にわたっておりバランスが取れている。対象者が一般市民向けの講演等が約3分の2で、3分の1は医療従事者を対象としたものであった。また、満足度は80～90%で、一部低いところについては、今後検討したい。

(湖南) 滋賀県立総合病院では、がん診療セミナーを毎月継続して開催している。特記すべきこととして、1月18日開催のがん診療セミナーにおいて、神戸大学の木澤先生に来ていただき、アドバンスケアプランニングの話をしていただいた。参加者が多く、満足度も高かった。

(甲賀) 以前に比べ開催件数は29件と増えており、そのほとんどが、甲賀病院のがん相談支援センター主催で行われている。緩和ケアの研修を中心に今年度は公開講座という形で行った。看護師による講演等に関しては、高い満足度となっている。また、一般市民向けや医療者向けの研修がほかの医療圏と比べると少なく、患者、家族向けが多くなっている。

(東近江) 実績として、東近江総合医療センター主催のがん診療セミナーがある。また、当圏域の特徴として、平成26年度から滋賀医科大学、東近江総合医療センターと近江八幡市立総合医療センターの3病院共同主催で公開講座を開催し、11月3日に「がんとリハビリテーション」、1月21日に「がんと就労支援」をテーマに行った。

(湖東) 湖東医療圏は彦根市立病院を中心に研修を行っている。特徴として、医療者向けの研修が多く、参加者は50人前後で、満足度もまずまず得られている。一般市民、患者、家族向けは少ないが、今年度の新たな取り組みとして、ウィッグ相談会（アピアランス支援）や、就労支援について取り組んだ。

部会長より、「FMひこねラジオ」で取り上げているが、何かレスポンスはあるのかとの質問があり、一方的なので反響については不明であるとの説明があった。

(湖北) 例年通り一般市民向け、患者家族、医療従事者向けの講演に力を入れており、特に昨年からはがん教育に力を入れている。主に長浜市内の中学校に医者と患者団体の方が出向き、医者ががんの一般的な講義を行い、患者団体の方がご自身の経験を授業というかたちで生徒に伝えている。満足度は掲載していないが、生徒、教職員の方から好評を得ている。また、毎年、湖北がんフォーラム、緩和ケア講習会を開催している。就労に関しては患者相談対応の知識を増やすよう、個別の就労相談会などを開いた。

(湖西) 資料では、開催回数が18回となっているが、2月に開催した分を含めると20回以上開

催している。2月11日にがんフォーラムを開催し、市民約100名の参加があった。アンケートにより何で調べたかを聞くと、地域柄、年齢も関係しているかもしれないが、ホームページを見た方は1割、チラシを見てきた方が4割程度であった。高島地域では市民向けに研修会を開催するときは、チラシの方が効果があるようなので、次年度からそちらに力を入れていきたい。また、中学生向けには、先生方が非常に熱心にごん教育をさせていただいており、引き続き行っていきたい。さらに、今年度から、認定看護師が訪問看護ステーションを対象に勉強会を始めており、地域全体で取り組んでいきたい。

部会長から、満足度はそれぞれかなり高く評価させていただいており、今後も引き続き満足度、参加者数の情報を集積していきたいとの説明があった。また、各地域の特性を考慮し、バランスも考えながら取り組んでいただいております、今年度の取り組みを踏まえ、また来年度に向けて引き続き取り組んでいただくよう依頼があった。

2) 看護ワーキングが行うがん看護研修の実施について(資料2)

多川委員より、がん看護研修について下記のとおり報告があった。

がん看護研修Ⅰについて、滋賀医大で開催し、受講者延べ932名、12科目受講者(全科目受講者)が27名であった。また、がん看護研修Ⅱでは、それぞれの拠点病院で9日間、実習生を受け入れてもらい、5名の研修生が修了した。さらに、1月29日には、平成28年度までにがん看護研修Ⅱを受けた方のフォローアップ研修を行い、4名がそれぞれの課題報告をして研修を修了した。

7月1日には、地域におけるがん化学療法の看護研修を県立総合病院で行い、23名の受講者があった。

平成24年度から行ってきたプログラムⅠの受講人数の年度別受講者数については、一覧表(資料2)のとおりで、12科目の受講者は、これまでで373名になった。

また、がん看護研修プログラムⅠとⅡの全課程修了者の医療圏別の所属施設を図(資料2)に示しており、青の部分が今年度の受講者である。がん看護研修プログラムの全課程を修了した人は、これまでで26名になった。

部会長より、フォローアップ研修についての質問があり、受講した後に各所属施設に帰り、がん看護に対する課題に向かって1年間活動したことを報告し、受講者で共有するという内容となっているとの説明があった。

3) 国立がん研究センターの受講調整について(資料3-1~2)

部会長から、国立がん研究センターの研修会のうち、県の推薦が必要なものは、「がん化学療法医療チーム指導者養成研修」となっており、平成29年度は、部会で決めた通りの順序で彦根市立病院に受講いただいた旨の報告があった。また、来年度は、市立長浜病院、その次は長浜赤十字病院の順で進めていくとの説明があった。

4) 各団体の取組について(資料4)

各団体の平成29年度の取組結果と平成30年度の取組予定について報告があった。

(滋賀県歯科医師会)

29 年度

- ・口腔がんチェック体制を整備するため、リーフレット、パンフレット、ポスターを配布した。3 年間にわたり会員から有志を募り、会員約 550 機関のうち、現在 129 の機関から手が上がり、3 月 1 日から口腔がんをチェックする体制が整い実施する。
- ・歯科のない病院に対して歯科医師、歯科衛生士を派遣してがん患者の口腔ケアをおこなった実績が、4 病院あり、そのうち、がん患者の口腔ケアの実施は 1 病院であった。
- ・全国共通がん医科歯科連携講習会を受けた歯科医師 67 名が連携登録歯科医師会員として登録した。平成 29 年度の連携実績については 30 年度当初に調査の予定であり、28 年度は 19 件の事例報告があった。

30 年度

- ・引き続き、がん患者の口腔ケアに重点をおきつつ、一般患者に対しても口腔がんチェック体制を整え動かしていく。

(滋賀県薬剤師会)

29 年度

- ・今年は「在宅ホスピス薬剤師」の認定研修を新規に行い、またあわせて現在認定されている認定薬剤師のフォローアップ研修を、4 月 16 日、6 月 18 日、8 月 27 日の 3 日間、朝 9 時から夕方 5 時まで行った。今後がん患者が増え、それに対応するため新しい担い手を養成している。
- ・外来化学療法を実施している県内各病院において、地域薬剤師会と病院が連携し、病院薬剤師並びに薬剤師の共同研修を実施している。

30 年度

- ・平成 29 年度に準じた活動を予定している。

(滋賀県看護協会)

29 年度

- ・29 年度に初めて、がんをテーマにした研修を行った。テーマは「乳がんの早期発見と最新の治療と看護」についてで、看護協会員を対象に 2 月 2 日に開催し、35 名の参加があった。
- ・滋賀県看護協会医療圏域には 7 地区支部があり、その各地区支部での研修会に認定看護師を講師として派遣した。

30 年度

- ・がんをテーマにした研修を定例化し、11 月にがん患者のアピアランスケアをテーマにした研修会を行う予定である。

(滋賀県放射線技師会)

29 年度

- ・前回の第 2 回部会で報告して以降、1 月 27 日に、第 3 回学術研修会として、「あなたが選ぶがん治療」というテーマで市民公開講座として一般の方も参加できるような研修会を開催した。参加者は 57 名で満足度は 92% でおおむね満足という回答であった。

30 年度

- ・引き続き市民の方を含めた公開講座を行う予定である。
- ・臨床検査技師会と協力して、乳がんの研修会を行う予定である。

(滋賀県臨床検査技師会)

29年度

- ・例年と同じく、県民にがんに関わることを知ってもらうための公益事業と、会員対象にがんにかかわる医療人の育成の二本柱で行っている。
- ・がんに関わる公益事業として、滋賀県で開催される健康フェスティバルに参加した。また、検査技師会として「検査と健康展」をイオンモール草津で開催し、参加人数は341名で、満足度は94%であった。検査体験等も加えて、がんの啓蒙を行った。
- ・がんに関わる医療人の育成として、各学術部門の研究事業10事業と他団体との共催事業として3事業を行った。

30年度

- ・平成29年度と同様に、健康フェスティバルへの参加と、検査と健康展を行っていく。検査と健康展については、検査相談コーナーを設けて、臨床検査専門医が健康診断の結果を持ってきていただいたら相談にのるとしていたが、PR不足のため、平成29年度も健康診断結果を持って来られるということがなく、そこが来年度の課題となる。
- ・会員の育成のための研修会を実施する。新しい事業としては、放射線技師会との合同研修会で乳がん検診に関してマンモグラフィと乳腺エコー検査の両者を理解することを目的で開催する。

(滋賀県歯科衛生士会)

29年度

- ・生涯研修として、歯科衛生士の人材育成を目的とした緩和ケアや患者とのコミュニケーションをテーマに行った。認定看護師による実際の症例をテーマにした研修会では、病院勤務、診療所勤務の歯科衛生士や、また県外からの衛生士の参加者もあり、アンケートでは、身になる研修であったという高評価が得られた。
- ・病院に勤務する歯科衛生士のスキルアップセミナーとして、情報共有しながら勉強会を開催した。

30年度

- ・がん医療に関わる研修会を開催予定である。病院では、周術期口腔機能管理が大変重要になってきおり、化学療法を受けられている患者が診療所に通院されるため、診療所に勤務する歯科衛生士にも今後ケアの方法や患者に適したケアを続けられるよう、情報共有をして関係性を強化したい。

(滋賀県栄養士会)

29年度

- ・生涯学習として、7月15日に会員向けに、がんの食事について、病院勤務の経験のある栄養士が、がん患者との関わり方、食事についてのアドバイス方法について講義していただき、そ

れについて会員とディスカッションを行った。

- ・余命3ヶ月から栄養を考えるという事で、残りの人生にどのような食事がかかわっていくかということを中心にした研修会を開催した。

30年度

- ・新たにできたがんの専門管理栄養士の資格を、拠点病院に勤務する栄養士を中心に取っていただき、地域の栄養士にも知識を広めていきたい。

(滋賀県病院薬剤師会)

29年度

- ・病院薬剤師向けの症例検討をベースにしたがん薬物療法カンファレンスを3回開催し、第15回については、琵琶湖オンコロジーナースカンファレンスという、がん化学療法看護師と合同で症例検討会を初めて行った。
- ・「地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース」を、地域の保険薬局や病院の薬剤師向けに3回開催した。
- ・今年度から、さまざまな合併症の患者を対象にしたがん薬物療法について「ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー」を開催した。

30年度

- ・29年度の実績を引き続き行う。

(2) 部会の取り組み評価（最終評価）について

1) アクションプランについて（資料5）

今年度は、5年計画の最終年度となる。アクションプランとして掲げている4つの項目について確認した。

がんに関わる医療人の育成に係る研修の検討に関しては、がんのリハビリテーションに係る人材育成について協議した。

分野ごとの講演会、研修会等の過不足の改善検討に関しては、毎回本部会で検証し、改善策を検討した。

フォーラム・講演会等開催情報一覧表の表示項目の検討に関しては、参加者数、満足度を把握し、講演会の名称を一般の方がより分かりやすくなるよう努めた。

県内統一の看護研修会の実施に関しては、がん看護研修Ⅰ、Ⅱおよびフォローアップ研修を実施した。

平成29年度は、5年計画の最終年度であり、目標をほぼ達成したと考えA評価とした。

2) PDCAサイクルについて（資料6）

部会として、研修会等の参加者数、満足度を把握し改善につなげており、満足度も高くなっている。引き続き、参加者の増加、満足度をあげるための対策を考えていく事となるが、次年度の第1回の部会で再確認することとする。

(3) その他

1) 滋賀県からの情報提供（資料7）

現在「滋賀県がん対策推進計画（第3期）」に向けて改定の準備を進めているところである。

基本理念は、「県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現」とし、全体目標として、国のがん対策基本計画と同じ3項目をあげている。これらについては、今回目標値は掲げていない。

分野別施策については、国と同じ4本の大きな柱として、1.「がん予防」、2.「がん医療の充実」、3.「がんとの共生」、4.「これからを支える基盤の整備」を掲げている。第1期、第2期では「がん予防」「がん医療の充実」が主であったが、第3期は、「がんとの共生」に重点が置かれ、就労支援や治療と仕事の両立、そしてがんと診断されたときからの緩和ケアが含まれている。また、「これらを支える基盤の整備」にがん教育が盛り込まれている。さらに、がん登録については、国では「がん医療の充実」に入っているが、滋賀県では、がん登録をもとに政策を考えるということで、「これらを支える基盤の整備」のところに入れている。

がん医療については、今までがん医療の均てん化ということで整備をしてきたが、今回はそれと共に情報提供や、患者さん自身が選択をすることを考慮に入れ、個別化を意識して作成した。

また、AYA世代（思春期、若年ということで15歳からだいたい39歳までの世代）に対してのがん対策を今後考えていくことになる。滋賀県としてはAYA世代に対し、しっかり把握できていないため、今後の課題である。

分野別施策それぞれに目標を掲げており、数値化しているものもあるが、数字に左右されるのではなく、どういう方向を向いているかというところで目標を掲げている。

この計画は、3月初めの議会を経て3月中の改定を予定している。

2) 「家族性腫瘍遺伝カンファレンス」の案内（席上配付）

部会長より、3月6日に滋賀医科大学で行われる「家族性腫瘍遺伝カンファレンス」についての案内があった。

3) がん患者団体連絡協議会から

- ・「がん情報しが」に掲載されているイベント講習会について、ひと月分しか公開されていないのかとの質問があり、県より、表の上のPDFをクリックすると一覧が表示されるとの説明があった。
- ・情報提供の方法として、「がん情報しが」には滋賀県宛と滋賀医大宛の2種類が掲載されており、がん患者団体が提供する場合、どちらにアクセスすればよいのか分かりにくいとの意見が出された。
- ・3月4日に公開講座「がんと診断された時からの緩和ケア」を南草津のiME Pニプロホールで開催するので来ていただきたいとの依頼があった。
- ・紙媒体の情報が大事であるとの話があったが、年代によっては、滋賀県の健康推進アプリ「ピワテク」などネットによる情報発信についても、集客に繋がり重要であるとの意見が出された。

部会員より、平成30年度から第3期の滋賀県の対策計画が始まるが、現在の部会や委員会はそのまま継続されるのか、との質問があり、県より以下の説明があった。

現在開催している部会が所属している協議会は、国が作成している拠点病院の整備指針を基に協議会を立ち上げており、協議する内容も明記されている。その中に研修に関することというのがあ

り、それにもとづいて研修推進部会を開催している。そのため、国の指針が変われば協議会の内容も変わってくるが、今のところ協議会に関する変更はないと思われる。

以上

【配布資料】

(資料1-1) がん関係フォーラム、講演会等開催予定数

(資料1-2) がん関係フォーラム、講演会等開催予定情報全体版

(資料1-3) (資料1-1)において、がん内容の区分が「その他」になっているものの一覧

(資料2) がん看護ワーキンググループ活動報告

(資料3-1) 国立がん研究センター都道府県指導者研修(県の推薦が必要な研修)受講予定一覧

(資料3-2) 平成29年度におけるがん対策情報センターの研修計画(予定)

(資料4) 各団体取組予定

(資料5) 滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート

(資料6) 滋賀県がん診療連携協議会PDCAチェックリスト

(資料7) 「滋賀県がん対策推進計画(第3期)(原案)」の概要

(参考1) 前回議事概要(平成29年度 第2回研修推進部会 10月20日開催分)

(参考2) 研修推進部会 部会員名簿

(席上配付) 第3回 滋賀医科大学 家族性腫瘍遺伝カンファレンス開催のご案内